

の南九州

第 5 号
平成 21 年 2 月 5 日発行

議会だより

MINAMIKYUSHU CITY



無病息災を願い、燃えさかるやぐら（瀬娃耳原の鬼火たき）

不快害虫対策費など補正	2
2施設の指定管理者決まる	5
いっぱん質問・7人が登壇	6
活かせ提言—閉会中の所管事務調査—	10
市民の声	12

不快害虫対策費 など補正

一般会計

補正額 ▲1億6,365万3千円
予算総額 202億7,478万4千円

補正予算の主なもの

庁舎管理費

455万2千円

組織機構改革に伴う川辺庁舎本館と別館の電気工事やカウンター改修など及び顕娃・川辺庁舎に公文書を保管するための7連式書架購入の経費である。



福祉関係が集約される川辺庁舎(本館1階西側)

―審査の中―

問 本館1階東側は、住民票の受付などを行う市民生活課、税務課が入っているが、その部署の移動はないのか。また、現在別館1階の福祉課と福祉事務所が入っているところにはどの部署が配置されるか。

答 本館1階東側は、現在のままで、西側を中心に福祉関係を集約し、別館1階には、農業公社と水道分室を配置する。

不快害虫対策費

671万5千円

9月以降のヤンバルトサカヤスデの異常発生により、家屋侵入防止や、密度抑制対策にかかる薬剤費及び鞍曲(知覧厚地地区)20ヘクタールの山林などへの薬剤散布委託料である。

問 住宅周辺に薬剤を集中的に散布することや、予防としての薬剤散布は考えていないか。

答 財源は全額一般財源であるが、県への補助要請はしていないのか。県も不快害虫ヤスデの対策会議を立ち上げており、現地検討会などを行いながら協議しているが、現在のところ補助制度はない。



薬剤散布で駆除されたヤスデ

給食センター管理運営費

2,055万2千円

川辺給食センターの調理業務委託にかかる4年間の消費税納付に伴う委託料及び顕娃給食センターの配送車、食器消毒保管庫購入費、各給食センターの燃料費、修繕料などである。



更新される配送車

―委員会より―

給食配送車の積算見積を1社から徴し補正計上しているが、見積については数社からとるべきであり、慎重に行うようにとの意見が出された。

市道補助整備事業費

1,244万6千円

南薩縦貫道整備に伴う市道野崎古殿線(川辺)の橋梁撤去による右岸側護岸工事で、当初張芝で計上していたが、安全性確保のため、ブロック積工への変更によるものである。



ブロック積工に変更される野崎川

補正予算 第5号 4

市民の声を 市政に問う!

7人が
登壇

いっぱん質問

勝目交差点の早期改修を図れ

市長／工事を執行する予定



深町 幸子 議員

深町 平成20年3月議会での一般質問で、勝目交差点の改修及び歩道の拡幅については、20年度に実施測量設計など工事前の予算計上を行い、工事は21年度予定とのことであった。また、自歩道の拡幅整備については、国道事務所に強く要望すると答弁しているが、その



改修がまたれる勝目交差点

後の経過を問う。
市長 予備設計をもとに
鹿児島国道事務所、県公

安委員会との協議を終え、平成20年6月に、鹿児島国道事務所計画協議書を提出した。

今後は実施協議を経て、用地買収など工事を執行する予定である。
自歩道拡幅については、川辺地区総合開発期成会で7月24日鹿児島国道事務所、また8月6日九州地方整備局に出向き、勝目交差点の改修に併せて強く要望した。

条例公民館の
建設計画を示せ

教育長／早期実現に
努力したい

深町 現在、条例公民館は川辺地域1館、知覧地域8館、瀬戸地域に7館が設置されている。
平成20年6月議会において教育長は、公民館活

動を展開するためには館が必要であり、館長を中心に条件整備とともに校区民の理解と協力が必要不可欠である。また体制を整えるには、しばらく時間がかかるかと答弁しているが、計画的に川辺地域に条例公民館を建設する考えはないか。

教育長 校区の実情を考慮しながら、一日も早く実現できるよう検討をしている。具体的には、①校区の既存の建物を利用する。②小学校の空き教室など学校施設を利用する。③小学校の敷地内に新設する方法などの検討を重ねている。



竹迫 毅 議員

ヤスデ返しに補助制度を
市長／今後検討する

竹迫 ヤンバルトサカヤスデの被害が、瀬戸地域、

知覧地域で拡大しているが、現在までの対応を問

う。

また、ヤンバルトサカヤスデの対策は現在薬剤散布に頼っているが、人体や環境に悪いと考える。そこで薬剤の使用量を減らすためにも「ヤスデ返し補助制度」を創設



家屋侵入対策のヤスデ返し

する考えはないか。

市長 平成11年度から、継続的に薬剤による対策を講じてきたが、生息範囲は年々拡大している。平成19年度までの対策費用は、旧町を含め5億円余りで市にとっても大きな財政負担となっている。

今後も、これまでの投資を無駄にしないよう対策を講じていかなければならないが、現段階での

ついて



群遊するヤスデ

地域公共交通の
決定事項を示せ

市長／拠点間連絡バスを新設する



下窪 一輝 議員

下窪 地域バス運行に向けて設立された南九州地域公共交通協議会における現在までの運行計画決定事項などを示せ。

市長 地域間の連絡が不足している区間にコミュニティバスを導入し新市の拠点間を連絡する路線を新設する。川辺地域のコミュニティバスを瀬戸・知覧地域に拡大する。
温泉バスは、新たに導入するコミュニティバスとの統合を図る。スクールバス、タクシーは、デマンド方式とする。自分

たちが守り育てるマイバス意識を醸成し、また、財政的コストを考慮した身の丈にあった持続できる公共交通を実現する事などが決定している。
※デマンド方式——児童・生徒の利用形態に合わせて運行する方式

小中学校のグラウンド
整備を図れ

市長／計画的に
取り組んでいく

下窪 小中学校のグラウンド整備状況と今後の計画を示せ。
市長 平成19年度までに、市内小中学校26校のうち



整備がまたれる瀬戸中グラウンド

15校においては排水対策を含む改修整備が済んでいる。今後、未整備の学

校や改修整備後に年数が経過した学校も計画的に取り組んでいきたい。

AEDの普及を

市長／民間の協力を得ながら
検討する



蔵元 慎一 議員

蔵元 各自治体ではAEDの設置が進められている。緊急な心停止の場合、心臓に電気ショックを加える除細動を早期に行うことが最も適切な処置だといわれているが、民間を含めた本市における設置状況と今後の設置計画を示せ。

市長 民間を含め、顕娃地域に5台、知覧地域に13台、川辺地域に15台で、合計33台が設置されている。そのうち市が管理するものは16台で、公共施設への設置率は25・8%となっている。
AEDの設置には、多額の経費を要するため、

民間の協力も得ながら設置について検討していく。
その他の質問
・各種行事に対する方針について



真剣にAED取扱い講習を受ける生徒たち

職員の適性配置を示せ

市長／職歴、勤務評定者の意見など
参考にする



柚木 茂樹 議員

柚木 公約である職員の適性配置を図るには、職員の能力・特性など職務に必要な勤務評定の把握が大切である。どのような方法で把握しているか。
市長 総務部長、副市長の意見を聞いて把握している。

柚木 長期的な人材育成には、人事における原理原則的な要綱が必要ではないか。
市長 どのような部署の配置であろうと、職員は、職務を遂行できるものと考えている。



知覧庁舎に勤務する職員

会議のインター ネット配信は

市長／慎重に検討したい

柚木 議会及び行政の会議などで公開が適当と思われるものをライブでインターネット配信する考えはないか。

市長 議会中継については、議会みずから判断することである。
行政の会議中継については、色々と問題もあるので、今後慎重に検討していきたい。

住民が安心する 市道管理を目指せ

市長／新しい管理体制で
行っていく



大園 秀己 議員

大園 市道管理について11月21日の全員協議会で説明があったが、草払い作業はどのように行うか。また、旧3町から引き継がれた側溝整備や舗装オーバーレイなどの事業は終了したか。終了していない事業があれば今後の計画を示せ。
市長 平成21年度から、草払いや軽微な舗装、補修及び側溝清掃など、直営による維持管理を行っていく。これまで川辺支所で実施していた維持班は廃止する。このようなことから、顕娃支所13人、



道路整備員による市道草払い

合併前に自治会などからの要望を受けている未整備分については、維持班による直営施工と業者への業務委託や工事請負により実施する。このことにより現在より充実した管理が実施できると考えている。

学童保育の拡充政策は

市長／民間活力や県の補助
事業などを活用する



山下 つきみ 議員

山下 近年、共働きや核家族化の進展に伴い、放課後学童の健全育成は全国的に重要な課題となっている。

本市においても、公・私立合わせて19の施設で学童保育を実施しているが、地域により利用が困難で、親の就労に支障を



川辺児童館での学童保育

来している家庭もある。
学童保育を拡充させる事で、若者の定住促進や住宅団地分譲などにも、相乗効果が期待されると考えるが、今後の取り組みを問う。
市長 学童保育の必要性については、市としても十分認識しており、現在、民間の協力も得て市内21小学校区のうち13小学校区で実施している。

今後、学童保育を拡充するためには、その場所や経費、人的要素などの問題もあることから、さらに民間活力や県の補助事業などを活用しながら保護者の要望に応えられるよう、前向きに取り組んでいく。

新市の道筋を求めて

提言 活かす

閉会中の 所管事務調査

南九州市営・公営住宅 種類別・地域別一覧 H20年8月25日現在

区 分	額 娃		知 覧		川 辺		合 計	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
公営住宅	221	31.9%	231	33.4%	64	9.3%	516	74.6%
特定公共賃貸住宅	41	5.9%	18	2.6%	16	2.3%	75	10.8%
世帯用住宅	41	5.9%	18	2.6%	9	1.3%	68	9.8%
単身用住宅	0	0.0%	0	0.0%	7	1.0%	7	1.0%
一般住宅	6	0.9%	64	9.2%	15	2.2%	85	12.3%
世帯用住宅	6	0.9%	18	2.6%	15	2.2%	39	5.7%
単身用住宅	0	0.0%	46	6.6%	0	0.0%	46	6.6%
地域活性化住宅 (世帯用)	0	0.0%	0	0.0%	16	2.3%	16	2.3%
合 計	268	38.7%	313	45.2%	111	16.1%	692	100.0%

産業建設常任委員会では、住環境の整備促進のため、本市の市営・公営住宅の適正な管理と今後の住宅施策のあり方などについて、10月29日に市内の現地調査を実施しました。

本市の市営・公営住宅の戸数は、額娃地域26戸、知覧地域313戸、川辺地域111戸と地域

増加が見込まれる宮脇小学校区においては、市営住宅などが整備され、また、商店や支所、駅の存在など利便性に優れ、若者が住みやすい環境となっている。

以上のような本市の実態をふまえ、委員会は11月5日、霧島市立永水小学校を調査した。

○旧川辺町で事業実施された地域活性化住宅事業は有効な施策であり、市民に事業内容などを周知するとともに、市遊休地などを活用し本事業の推進を図ること。

○地域により市営・公営住宅は戸数、耐用年数など大きな差異がある。市内全域の民間賃貸住宅を含めた住宅状況を調査・把握し、地域のバランスに配慮した住

提

言

宅整備を図ること。

○老朽化に伴い解体が決定している団地は、入居者が退去後、逐次解体を行っているが、残存住宅により土地の有効活用が困難である。入居者の置かれていない立場を十分に配慮しながら転居策を進め、団地全体が有効活用されるよう、早急に取り組むこと。

閉会中の
所管事務調査

総務常任委員会
「防災体制の現状と今後の対応策について」

文教厚生常任委員会
「文化財に対する取り組みと活用について」

産業建設常任委員会
「道路の整備と管理について」

住環境の整備促進で 団地の有効活用を

産業建設常任委員会

により差があり、特に戸数の少ない川辺地域は、民間業者による賃貸住宅が多い。

また、低所得者向けの公営住宅戸数は、額娃地域221戸、知覧地域231戸、川辺地域64戸である。

住宅の整備状況は、新規の住宅建設は、額娃地域は計画的に数戸ずつ整

備しており、知覧地域はここ10年新たな住宅整備は行われていないが、年次計画を立て鉄筋コンクリート構造住宅の大規模改修を行っている。川辺地域は将来の建設に向け、空き家となった老朽住宅の撤去を進めながら、平成13年度から新たに地域活性化住宅の建設に取り組んでいる。

なお、総体的に老朽化が進み、雨漏りや水道施設などの修繕が増加傾向にある。

地域活性化住宅とは？

市が用地を取得し宅地造成を行い、一定の条件を付して借家住宅の建設を民間に公募する。

希望者のうち、本市に有利な条件の提示のあった者と15年間の賃貸契約を結ぶ。

市は当該住宅の建設後、本事業の対象者に市営住宅として貸し出す。

住宅の借り上げ料と家賃の差額は市の負担とし、管理費は建設者の負担と



川辺地域の活性化住宅

26年度には504人減少する見込みであり、複式学級が増加するなど小規模化は一層進むものと思われる。

現在、山村留学制度を神殿小及び大丸小で実施している。また、手養小では、知覧小学校区を対象として、小規模校入学特別認可制度に取り組んでいる。

このような中、児童数



永水小学校で説明を受ける委員ら

○若者の定住は児童生徒増につながることから、積極的な企業誘致や道路、住宅などのインフラ整備により魅力ある住環境づくりに取り組むこと。

○地域の特色、魅力を前面に打ち出しながら、地区公民館を中心に学

校と住民が一体となつて児童生徒増に取り組むこと。

○学校が各地域の核となっている現状をふまえ、現在の21小学校の存続に向け、ソフト面、ハード面において各種施策を強力に展開すること。

各地域の核となる 学校の存続に各種施策を

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会は、地域の核となっている学校の児童生徒数の減少が、地域の沈滞を招くなど大きな問題となっていることから、小規模校対策について調査しました。

ち上げ、PTAで取り組んでおり、現在まで138人の児童を受け入れている。今年度は家族留学を含む4人の留学生と6人の特認校制度を利用した児童が通学しているとの事であった。

学校の特色や魅力を前面に打ち出していることや、地域の受け入れ態勢が充実していることなどが児童生徒数の増加につながっている。

年度別小・中学校児童・生徒数の見込み

H20年7月1日現在

●小学校

番号	校 名	H20年度	H26年度見込	番号	校 名	H20年度	H26年度見込
1	額 娃 小	124	79	12	中福良小	61	31
2	宮 脇 小	121	157	13	松 山 小	121	87
3	九 玉 小	55	71	14	手 養 小	25	12
4	別 府 小	162	142	15	川 辺 小	485	387
5	松 原 小	19	21	16	高 田 小	81	62
6	青 戸 小	132	98	17	神 殿 小	13	6
7	栗ヶ窪小	92	57	18	清 水 小	26	23
8	知 覧 小	269	257	19	田 代 小	34	39
9	霜 出 小	99	83	20	勝 目 小	83	76
10	松ヶ浦小	34	28	21	大 丸 小	38	31
11	浮 辺 小	54	23	合 計		2,128	1,770

●中学校

番号	校 名	H20年度	H26年度見込	番号	校 名	H20年度	H26年度見込
1	額 娃 中	181	181	4	知 覧 中	386	326
2	別 府 中	116	93	5	川 辺 中	427	354
3	青 戸 中	73	83	合 計		1,183	1,037

提 言

市民の声 !!



知覧町南別府

中渡瀬 國治

南九州市議会へ 期待する心

平成19年12月1日、「自然豊かで 創造と活力に満ち くらしいのちが輝く」を基本理念にスタートした南九州市も2年目のお正月を迎えました。昨年、合併一周年を祝う記念式典が知覧文化会館で800人近い参加者のもと厳粛かつ盛大に挙行されました。

式典が進むにつれ、希望と歓喜の念に燃え上がる胸の思いに涙する私でした。

私は、議会傍聴が好きです。特にテーマに基づ

いて行くわけではないが、自分の選んだ議員との接点を深めたいからです。

議員にとって一般質問だけですがではないと思います。市民の代表として、執行部との真剣なやりとりなど吸い込まれていく自分に快感さえ感じることもあります。

逆にもっと勉強してからもよかったのではと思うこともあります。

初回の選挙では、各町から8人ずつの選出方法がとられたようですが、次回からは、選挙区を設けず24人の市議会議員が誕生します。

私たち市民の代表として、地方公共団体の議決機関として、市民の生活向上と住みよいまちづくりを念頭に今以上に広義的な物の見方、考え方もって、基本理念でもあります創造と活力ある議会運営に期待いたします。



川辺町清水

佐野 宏幸

安心して子育て できる環境を

私たち家族が川辺町に住み始めて一年半が過ぎようとしています。自然が豊かなこの土地で子育てができたらと鹿児島市から移住して来ました。

私が住んでいる団地では、昨年5月に自治会を立ち上げました。自治会を立ち上げた事により、団地の名称も変わりました。まだ一年も経たない新しい自治会ですが、少しずつ地域の行事にも参加しています。自治会が立ち上がったきっかけは防犯灯の設置でした。住んでみて気付いたのです

が、団地内に灯りが一つもないのです。国道を入つてからの道路は夕方過ぎると真つ暗になります。団地内も、各家庭からの灯りしかありませんでした。子供たちが大きくなつてからは遅いと思ひ、防犯灯の設置を要望したのです。

団地が分譲された目的の一つに児童を増やそうという内容があると聞きました。川辺町は、病院や保育所、幼稚園などは充実していますが、小学生の児童を預ける児童館が不足しています。規模は小さくても、児童館があるとと思うと、親は安心して働くことができます。児童を増やすためにはそれなりの環境が必要です。

南九州市全体の問題として、安心して子育てができる環境づくりをぜひ考えていただきたいと思います。

編集後記

本年も1カ月余りが過ぎましたが、市民の皆様にはますますご健勝のことと思います。

昨年12月には、合併一周年記念式典が盛大に開催され、新たに市の発展を願いました。

また、1月3日には、

“議会を傍聴してみませんか”

次の議会は**2月24日**開会予定

手続簡単!! 本館2階で住所・氏名などを書くだけ

▼広報編集委員会

委員長 森田 隆志
副委員長 峯苦 勝範
委員 竹迫 毅
菊永 忠行
田畑浩一郎
山下つきみ

今後、市民の皆様方に分りやすい議会だよりを届けるために委員一同努力してまいりたいと思います。

(田畑 浩一郎)

第1回南九州市成人式が挙行され、約800人の新成人が誕生しました。高齢化が進む本市ではありますが、半数近くの新成人が地元に残っているようで、今後、市の発展につながる期待を感じました。

全国的に、景気低迷など厳しい時期ではありますが、新成人とともに、不況を乗り越え輝かしい南九州市を目指してこの2年目を乗り越えていきたいと思ひます。